

シンガポールにおけるルビーロマンフェアの開催と東南アジア各国を繋いだオンラインセミナーの開催について

シンガポール伊勢丹におけるルビーロマンフェアの開催

8月21-23日、今回で4回目となるルビーロマンフェアがシンガポール伊勢丹で開催されました。現地サプライヤーからの強い要望を受け開催している本フェアですが、開催前から現地のお客様より当該サプライヤーに問い合わせが入り、フェア取り扱い数量の約半数が予約で埋まりました。開催を重ねるごとにシンガポールの一部富裕層などに浸透してきたルビーロマンは、「年に一度の楽しみ。風味がよい」と好評を博していました。こうした富裕層の方々は、より高品質なものを求めております。今年は、「特秀」や「G class」（大粒ぞろいの房）といった、より等級の高いルビーロマンを販売しましたが、その中でも「特秀」から売れました。高くても美味しければ購入してくれるという理想の流れが出来つつあり、これはこれまで続けてきたゆえの賜物であり、また伊勢丹や現地サプライヤーからの強力なサポートがあったからこそその結果だと思っています。

一方、昨年予約してくださったVIP（インドネシア在住の華僑）の方からは「（新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航の制限があり）購入することができず、非常に残念。また来年楽しみにしている」とサプライヤーに連絡があり、フェア開催国外からの需要も高いことが伺えました。

こういったファンの存在が県産品の販路拡大には必須です。こうしたファンを増やし、ビジネスを広げることが理想な形だと私は感じています。



伊勢丹ルビーロマンフェアの会場

コロナの現況下における新たな取り組みについて

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航が制限される中、石川県鉄工機電協会では、9月17日、タイ、ベトナム、インドネシアに進出する会員企業及び中国の北國銀行上海駐在員事務所並びに石川県をオンライン会議システムで繋いだ「きでん国際オンラインセミナー」を開催しました。まず、ジェトロ海外調査部からASEAN地域における新型コロナウイルス感染症の現状について、経済指標等を用いて説明があった後、各国の駐在員からは国内や会社の状況など、現地の最新情報について報告いただきました。コロナ前には集合型のセミナーが主流でしたが、こうしたオンラインセミナーを通じて直接情報交換できるのは、一つの働き方の変化だと思います。一方、「オンライン会議などの活用で業務効率化につながった部分はあるものの、商談の最終局面である契約、新規事業の立ち上げ時といった場面では対面で議論すること

が必要」との声も聞いており、これらをベストミックスした形が今後の新常態になると考えています。



会議のイメージ

日本とシンガポールとのビジネス往来再開

皆さまご承知のことと思いますが、新型コロナウイルスを巡る入国制限に関し、シンガポール・日本間のビジネス目的の往来が9月18日から再開されました。同日から在シンガポール日本国大使館で、短期滞在者向けの行動範囲を限定したビジネス活動を許可する「ビジネストラック」の利用申請の受け付けをしております。具体的には、PCR検査による陰性証明や活動計画書の提出を条件に、入国後14日間の待機期間中でもビジネスに従事できるようになりました。日本政府がビジネストラックを始動するのはシンガポールが初となっており、こうした渡航再開は諸々条件が付随しますが、経済のためにも、安全に配慮した形で拡大していくと思います。

新型コロナウイルス感染者との接触者追跡強化（Trace Together プログラム（追跡アプリ）と Safe Entry（建物や店舗へ入る際の ID を使った訪問者登録システム）の強化）

安全かつ段階的な活動再開のため、シンガポール政府は Trace Together と Safe Entry の拡大を図り、感染者と接触があった者の追跡を迅速かつ包括的なものとし、感染拡大と大規模なクラスター形成のリスク軽減を図っています。

また、リスクが高く携帯アプリの使用が困難である場合が多い高齢者や、Trace Together を自身のスマートフォンで利用することに抵抗がある人など、より多くのシンガポール居住者を守るため、政府は9月14日から全ての居住者に対し、無料で Trace Together を搭載した端末「TT トークン」の配布を開始し、11月までには全居住者に配布を完了することを目指しています。

こうした取り組みによって、接触者の追跡作業がより効率的かつ効果的になり、もし感染者が発生しても、拡大防止につながるでしょう。



TT トークン

こうしたコロナ禍の中、創意工夫を凝らした取り組みを通じ、新たなビジネスの形が生まれはじめています。まだまだ予断は許さない状況ですので、ご健康にご留意いただきますとともに、お困りごと等ございましたら何なりとご連絡ください。